

令和3年度 第1回 豊能町子ども・子育て審議会

○ 日 時 令和3年6月1日（火）午後2時～3時30分

○ 場 所 豊能町役場 本庁 第1・2会議室

○ 出席委員 8名 敬称略、順不同

鈴木 正敏氏 兵庫教育大学学校教育研究科准教授

一丸 知代子氏 豊能町子育てアドバイザー

木田 正裕氏 豊能町社会福祉協議会前事務局長

上田 みゆき氏 豊能町立吉川保育所所長

溝口 百合子氏 豊能町立ひかり幼稚園園長

門 節子氏 豊能町商工会 女性部部长

福島 智子氏 豊能町立ひかり幼稚園 PTA 副会長

古川 久美子氏 豊能町立認定こども園ふたば園前 PTA 副会長

○ 欠席委員 2名

馬渡 秀徳氏 内科医、池田市医師会豊能地区担当理事

三浦 千恵美氏 豊能町立吉川保育所保護者会副会長

○ 行政出席者

塩川町長、森田教育長

事務局6名

八木こども未来部長、入江こども未来部理事、竹内こども育成課長、鳴海豊能町立認定こども園ふたば園園長、谷こども育成課課長補佐、岡こども育成課主事

○ 配付資料

次第、豊能町西地区における認定こども園の設置について（資料1）、就学前児童数（資料2）、令和3年度豊能町子ども・子育て審議会委員名簿（資料3）、令和3年度豊能町子ども・子育て審議会について（資料4）

- ① 塩川町長挨拶
- ② 出席者紹介
- ③ 委嘱状交付
- ④ 審議会会長、副会長選任
- ⑤ 資料確認
- ⑥ 審議会開始
- ⑦ 傍聴者入室
- ⑧ 諮問書説明・読み上げ

<諮問書について>

質疑・意見なし

会長：「魅力あるこども園づくり」という大変むずかしい課題を与えられた。

「こども園」だけでなく、子ども世帯を町に呼び込むため魅力あるまちづくりが必要。

人材もなかなか薄い状態とのことでもあり、職員にとっても「魅力あるこども園」にするということが大切になってくる。

- ⑨ 審議事項：豊能町西地区における認定こども園の設置について

委員：・少子化を実感している。

- ・高齢者の福祉に対し、充実していると感じているが、未来ある子どもたちのために環境を整える一助となるよう参加していきたい。
- ・自身の子どもが、「こども園でよかった」と思っている。
- ・利点が多い。
- ・幼稚園部で入園し保育所部に異動したが、他の園をさがさなくてもよかった。
- ・保育所部の子どものたくましさを知れた。また、子どもにもいい影響があった。
- ・多様な生活、多様な関係が体験できた。

- 資料2について、就学前児童の推計について説明を。⇒ 事務局より説明。
- 資料1について質問について、公立に対する町の財政負担について
⇒ 事務局より次回に確認し説明する。
- 「西地区におけるこども園の設置」であるので、町全体ではなく、東地区・西地区それぞれの基本資料を作成すべきではないのか。推計値を作成し提案すること。
⇒ 事務局より、確認し、次回資料を提出する。
- 東地区のこども園を設置した経緯から、メリット・デメリットや当時の計画案を資料とすることで、審議がより進むと思う。⇒ 事務局より確認し、次回説明する。
- 吉川幼稚園と光風台幼稚園の統合でひかり幼稚園が設置された時に勤務していた。同じ幼稚園どうしても、違うところがたくさんあり、バスの運行なども含め、保護者の不安も大きく準備も大変であった。
しかし、保護者に丁寧に寄り添い不安感を小さくしたことで、いろいろな面で理解もしていただき、園運営にご協力もいただけた。10年経った現在も、いい状態にある。はじめにしっかり基盤をつくるのが大切だと思う。
- 豊能町は職員異動が幼稚園、保育所間であるので、ふたば園ができた当初は、あらかじめ職員同士に繋がりがあるので、連携が取れていた。
- 施設に関しては、既存の幼稚園施設に乳児の増設をしたが、敷地が限られているのもあるが、もう少し広さが欲しいと感じた。施設の間取り等について、現場の職員の意見を聞いてほしいと思う。
- 幼稚園と保育所では生活時間の調整は、初めは大変だったが、今では子どもも保護者も慣れている。
- 同じ小学校に就学する子ども同士と一緒に過ごせるという良さがある。
- この審議会でも公営、民営にするのか。
保育所が民営化になり、時間が経過すると、支援を要する子どもが受け入れられないということがあったので、公立の方がいいかなとも思う。その点については、熟考する必要がある。

会長：・決定権はないが、今後は、審議会としてのこども園設置についての方向性の議論をしていかななくてはならない。

・民間と積極的にかかわりあいをもつことも必要になる。公私連携幼保連携型認定こども園という半官・半民でやっているところもある。財政面では、非常に厳しいが、運営については、行政がしっかり関わっていく必要がある。

・ただ、民営化し、初めは公立のよいところをのこせても、数年後、維持できないという失敗したケースも多くみてきた。

例えば、支援を必要な子どもたちを受け入れない実態などがある。それを大変危惧している。「任せました。つぶれました。」とならないようにしなければならない。

公立から民間へ。維持できず再度公立へとなった園もある。その可能性も見据えておくことが重要である。

・東地区と西地区のバランスや、小中一貫の考えなどもしっかり考えておかなければならない。

・しっかり行政が関与すること。また、そこに地域・民間と、この3者の連携が必要。

・一番いいところで寄り添い合い、こどもにとっていいものをつくっていきましょう。

⑩ 次回の案内

⑪ 閉会